江戸時代の多治見の支配者

多治見市域が現在のような一つの町となったのは、昭和になってからのことです。江戸時代には多治見は18の村に分かれており、それぞれの村に庄屋・組頭・百姓代の村役がいて村の取りまとめをしていました。また、村によって幕府・旗本・尾張藩と支配者が違いました。関ヶ原の戦い以後、徳川家康によって大規模な領地替えがおこなわれ、中山道に近く要所であったこの地域も徳川方についた武将に分け与えられました。その後、領地替えや、跡継ぎがないため領地を没収されて幕領になる土地もあり、幕末には下図のような複雑な支配となりました。

旗本林氏・馬場氏

将軍の家臣である旗本が直接支配していました。大原・根本・小木村（現北小木）は旗本林氏が支配者で、現在の羽島市江吉良町に役所がありました。
小名田村は旗本馬場氏が支配者でした。瑞浪の釜戸に役所があり、年始の挨拶や様々な役所での雑役のため小名田の村人はたびたび釜戸へ通っていました。
しかしいずれも殿様は江戸常住のため、支配地にはいませんでした。

尾張藩の藩主

尾張との国境に位置し、名古屋へと続く下街道沿いであったこれらの村々は、尾張藩によって支配されていました。
現在の瀬戸市にあった尾張藩の出張所・水野代官所が直接支配しており、様々なお触書が代官所からきたり、村々からの願書などと代官所を通じてやり取りをしていました。

江戸幕府の将軍

江戸幕府の支配下であったこれらの村々は幕府直轄領、天領などとよばれました。
幕府の代官所が現在の笠松町にあり、この笠松役所を通じて年貢を納める通知書がきたり、工事などの許可願を出したりしました。

郷土のことについて調べるなら

郷土資料室へ

地元に関する資料や市民の皆様から寄せられた文書や記録などを整理し保管しています。保管資料は利用者の方の調べ学習・研究などにもご利用頂けます。
地域の歴史に関するご相談は、郷土資料室までお問合せ下さい。
市民の皆様からの郷土資料のご寄贈や情報の提供も募集しております。

多治見市図書館郷土資料室

【場所】 多治見市豊岡町1-55　まなびパークたじみ4階　JR多治見駅より徒歩5分
【電話】 0572-23-3783
【開室時間】火～土曜日　10時～17時（日・月・祝日・年末年始は休室）　※図書館とは開室日・時間が異なりますのでご注意ください

平成26年2月作成